

氏名	平澤 洽	生年月日	1938年3月15日
所属・役職	政策調査分析センター	経験年数(うち本業務の類似業務従事年数)	
	理事長、上席研究員	43年(28年)	
専門分野	研究イノベーション政策研究、MOT・技術経営、戦略論、評価論、システム論		
所有資格	特になし		
経歴(職歴/学位)	<p>職歴: 東京大学教養学部基礎科学科第二(システム基礎)教授、東京大学名誉教授、科学技術政策研究所 総括主任研究官、政策研究大学院大学 教授、北陸先端科学技術大学院大学知識科学研究科 教授、Knowledge Front Inc. 代表 等を経て、現職。</p> <p>学位: 博士(工学)</p> <p>その他: 通産省、科技庁、文科省、経産省、内閣府、総務省等の審議会等の委員(長)、北陸先端科学技術大学院大学経営協議会委員、等</p>		
所属学会	研究・技術計画学会、電気化学会		
類似業務の実績			
業務名	業務内容(主なもの)	履行期間	
科学技術関連組織や制度設計	<p>1. Youichi Tanaka(研究当時 広域科学専攻大学院生)、<u>Ryo Hirasawa(東京大学教授)</u>、「Features of Policy-making Processes in Japan's Council for Science and Technology」、Research Policy Vol. 25 No. 7 p999-1011 (1996)</p> <p>2. <u>平澤 洽(東京大学教授)</u>、新工学知 第3巻、技術知の射程、第1部 環境問題の知「環境知のダイナミクスとインセンティブ連鎖の設計」を執筆、東大出版会、(1997)</p> <p>3. <u>平澤 洽(科学技術庁科学技術政策研究所総括主任研究官)</u>、富澤宏之(同 研究官)、樟 良治(同 研究官)、伊地知寛博(同 研究官)、「主要国の科学技術政策関連組織の国際比較」、NISTEP 調査資料・データ No.55、(1998. 6)</p> <p>4. <u>平澤 洽(科学技術庁科学技術政策研究所総括主任研究官)</u>、「海外主要国の科学技術政策形成実施体制の動向調査」、I 調査研究の目的とその概要 2. 調査結果の概要、3. 結論、II 調査研究結果の内容【総論】、【各論】第1章アメリカ、第3章ドイツを担当、(財)政策科学研究所、(1998. 3)</p> <p>5. Takayuki Hayashi(研究当時 広域科学専攻大学院生)、<u>Ryo Hirasawa(東京大学教授)</u>、「Incentive Chain Model: Policy Formation to Support the Development of "Public Technology"」、Proceedings of A Triple Helix of University-Industry-Government Relations、p158-160 (1998)</p> <p>6. <u>平澤 洽(政策研究大学院大学 教授)</u>、「日本の科学技術関連政策－何が問題か、どうすべきか」、科学、Vol. 71 No.11 p1428-1437、岩波書店、(2001. 11)</p> <p>7. <u>平澤 洽(東京大学名誉教授)</u>、平成 20 年度科学技術振興調整費研究報</p>	1995年12月～現在	

	<p>告書:第3期科学技術基本計画のフォローアップに係る調査研究「科学技術を巡る主要国等の政策動向」、第3部主要国等の科学技術政策の動向の横断的分析 第1章各国動向の横断的比較、第2章アメリカ合衆国(米国)、第7章中華人民共和国(中国)、第8章大韓民国(韓国)第1節~第3節を担当、NISTEP REPORT No.117、文部科学省 科学技術政策研究所、(2009. 3)</p> <p>8. <u>平澤 治</u>(東京大学名誉教授)、「総合科学技術会議の実績をふまえて「科学技術戦略本部(仮称)」のあるべき姿を考える」、科学、Vol. 80 No. 3 p306-315、岩波書店、(2010. 3)</p>	
<p>戦略的政策の形成</p>	<p>1. Cho Hwang Hee(研究当時 広域科学専攻研究生)、<u>Ryo Hirasawa</u>(東京大学教授)、「Changes in Japanese Government policies to be a front-runner in science and technology」、Science and Public Policy、Vol.25 No.1 p47-54 (1998)</p> <p>2. <u>平澤 治</u>(東京大学教授)、「ソフト系科学技術の研究開発の現状及び今後の展開方向についての調査」、第I部 ソフト系科学技術の概念 を執筆、(財)政策科学研究所、(1988. 3)</p> <p>3. <u>平澤 治</u>(東京大学教授)、「科学技術政策の国際的展開—技術の国際的依存関係の深まりを踏まえて—」、第2部 科学技術の国際的展開 第2章我が国の国際的行動理念 を執筆、(社)日本経済調査協議会、(1991. 12)</p> <p>4. <u>平澤 治</u>(東京大学教授)、「科学技術政策の新たな課題」、21世紀フォーラム、No.52 p78-83 (1994)</p> <p>5. <u>平澤 治</u>(東京大学教授)、「真に独創的な研究者の能力向上及び発揮条件に関する調査」、第4章 国立試験研究機関の卓越した研究者に関する個別事例調査 4.2 卓越した研究者を対象にした知的成果物データベースに関する個別事例調査 を担当、(財)政策科学研究所、(1996. 3)</p> <p>6. <u>平澤 治</u>(東京大学教授)、「科学技術基本法と基本計画—今後の課題と改革の方向性—」、21世紀フォーラム、No.58 p16-20 (1996)</p> <p>7. <u>平澤 治</u>(科学技術政策研究所総括主任研究官)、「産業技術政策の概念的枠組みの進化とその海外動向に関する調査研究報告書」、参考資料 以外の全てを執筆、(財)政策科学研究所、(2000. 5)</p> <p>8. <u>Ryo Hirasawa</u>(東京大学名誉教授)、「Mission-oriented knowledge system in graduate schools: how can we ingrain it and assure the quality」、Report of the International Workshop on Graduate Education, 2009、RIHE International Seminar Reports No.14 p17-27 (2010)、Research Institute for Higher Education、Hiroshima University</p>	<p>1987年4月 ~現在</p>
<p>科学技術関連システムの分析</p>	<p>1. Tomohiro Ijichi(研究当時 広域科学専攻大学院生)、Tatsuro Yoda(研究当時 広域科学専攻大学院生)、<u>Ryo Hirasawa</u>(東京大学教授)、「Mapping R&D Network Dynamics: Analysis of the Development of Co-author and Co-inventor Relations」、Journal of Science Policy and Research Management、Vol.8 No. 3/4 p263-275 (1993)</p>	<p>1977年4月 ~2001年3月</p>

	<p>2. Saviour Boluda(広域科学専攻大学院生)、Hiroshi Asamitsu(広域科学専攻大学院生)、Tomohiro Ijichi(広域科学専攻大学院生)、<u>Ryo Hirasawa(東京大学教授)</u>、「Organizational Flexibility in the Japanese Corporate R&D Setting」、Technology Management, IEEE p53-58 (1991)</p> <p>3. Kazuo Yanagishita(金沢工業大学 教授)、<u>Ryo Hirasawa(東京大学教授)</u>、「Competition and Cooperation in Japanese Home appliance Manufacturers: a case in VCR manufacturers」、Technology Management, IEEE p247-249 (1991)</p> <p>4. Tomohiro Ijichi(研究当時 広域科学専攻大学院生)、<u>Ryo Hirasawa(東京大学教授)</u>、「R&D Organizational Processes on Suspension System for Automobiles: A Comparative Analysis Based on Patents and Academic Publications」、Technology Management, IEEE p539-545 (1997)</p> <p>5. Tomohiro Ijichi(研究当時 広域科学専攻大学院生)、<u>Ryo Hirasawa(東京大学教授)</u>、「Accumulation and Utilization of R&D Competence: A comparative Analysis on R&D Processes for LCD among the Companies in Japan, the United States and Europe」、Proceedings of 7th International Forum on Technology Management, p240-245 (1997)</p> <p>6. Tomohiro Ijichi(科学技術政策研究所 研究官)、<u>Ryo Hirasawa(科学技術政策研究所 総括主任研究官)</u>、「R&D Organizational Process on Liquid Cristal Display: An Internationally Comparative Analysis Based on Patents」、Technology and Innovation Management, IEEE p438-445 (1999)</p>	
<p>評価法の体系的展開</p>	<p>1. <u>平澤 治(東京大学 助教授)</u>、「構造化技法による研究開発課題の事前評価法」、研究技術計画、Vol.1 No.2 p152-157 (1986)</p> <p>2. <u>平澤 治(政策研究大学院大学 教授)</u>、「外部評価機関の在り方に関する調査報告書」、第1章 国の研究開発プロジェクト／プログラム等の評価と外部機能、第2章 海外主要国における外部評価機能の活用 を執筆、(財)政策科学研究所、(2001. 3)</p> <p>3. <u>平澤 治(政策研究大学院大学 教授)</u>、「研究開発プロジェクト等の評価手法に関する調査報告書」、＜参考資料＞以外の全ての章を執筆、(財)政策科学研究所、(2002. 3)</p> <p>4. <u>平澤 治(政策研究大学院大学 教授)</u>、「技術評価に係る評価人材の育成等に関する調査報告書」、＜参考資料＞以外の全ての章を執筆、(財)政策科学研究所、(2002. 3)</p> <p>5. <u>平澤 治(東京大学 名誉教授)</u>、「研究開発のアウトカム・インパクト評価体系」、1. 実績概念の枠組みとアウトカムの定義 を執筆、(財)政策科学研究所、(2006. 3)</p>	<p>1985年4月～現在</p>
<p>主な手持ち業務の状況(平成24年11月13日現在 2件)</p>		
<p>業務名</p>	<p>業務内容</p>	<p>履行期間</p>
<p>科学技術イノベーション政策形成のための</p>	<p>当研究所でこれまで実施してきた未来社会に対する潮流(ビジョン)分析と危機分析とを踏まえ、社会経済の発展に潜む「ワイ</p>	<p>2012年6月～ 2012年11月</p>

<p>社会経済的課題把握に関する調査研究(新技術渡辺記念会)</p>	<p>「ドカード」(地雷)の探索を新たに加え、収集した未来社会情報の分析に知識論の枠組みを援用した独自のアプローチを開拓することで、社会経済的将来予測(フォーサイト)における信頼性と共有性の高い情報収集・分析基盤を構築することを目的として実施。</p>	
<p>海外ファンディング機関における研究評価手法に関する動向調査(NEDO)</p>	<p>海外ファンディング機関において利用されている優れた評価手法、及び急激な情勢変化に対して迅速かつ柔軟に対応している仕組み等に関する詳細調査を行い、NEDO における評価に関するマネジメント機能の向上を図るために必要な改善指針とその解決策を見出すと共に、NEDO で活用されているアクションチェックリストの改善に活用する。</p>	<p>2012年8月～ 2013年3月</p>